

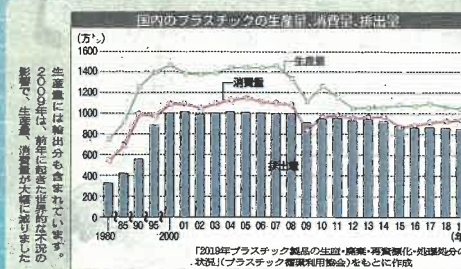
エスリンク学部科

日々の動きを伝える新聞記事。世の中の課題に気がつき、解決に必要な大学での学びをイメージするきっかけにもなります。ニュースと学びの結びつきに焦点をあて、どのような学部・学科で学んでいけるのか解説します。指南役は「勉強のやり方」を教える塾、プラスティー代表の清水章弘さんと、講師の池航平さんです。

プラスチックごみ

初回のニュースは「プラスチックごみ(プラごみ)」。減らすには、どのようなアプローチがあるのでしょうか。実は社会的な問題の解決をめざす学問って、みなさんが考える以上に多岐にわたります。

社会問題の解決を探る



「2019年プラスチック製品の生産・消費・再資源化」に関する調査結果が発表された。この調査は、プラスチック製品の生産量、消費量、排出量を調査し、その傾向を分析した。生産量は増加傾向、消費量は減少傾向、排出量は増加傾向であることがわかった。

3

消費者の責任って？ →倫理学(環境倫理学)、法学

プラごみの多さは、企業だけの問題なのでしょうか。消費者が求めるものを提供するのが企業。記事に「みなさんの価値観にかかっています」とあるように、消費者も向き合う必要があります。消費者の責任を考えるには「環境倫理学」が役立ちます。責任を問う場合は根拠も必要。「法学」的な観点も欠かせません。



解説 清水章弘 プラスティー教育研究所代表。1987年、千葉県出身。東京大学を経て、同大学大学院(教育学研究科)修士課程修了。東京・京都・大阪でプラスティーを運営し、テレビやラジオ、新聞などで勉強のやり方も解説している。著書に『中学生からの勉強のやり方』など多数

環境問題が経済にあたえる影響って？ →経済学(環境経済学)

環境問題はみんなが協力して解決しようという動きになかなか結びつきません。では、環境に価格があればどう？ 破壊されたときの損失を計算でき、ことの重大さに対してイメージを共有できそうですね。環境が経済にあたえる影響を研究するのが「環境経済学」。環境を守ると得をするというしくみづくりも含まれます。

便利さから広がったプラ包装 削減はあの手この手で

今、環境問題は無視できない。プラスチック包装の削減は、環境問題の解決に重要な役割を果たしている。便利さから広がったプラスチック包装の削減は、あの手この手で進められている。環境問題は、私たちの生活に密着している。便利さから広がったプラスチック包装の削減は、あの手この手で進められている。

2

効率のよいリサイクルとは →工学(情報工学) 理学(環境科学)

効率のよいリサイクルにはAI(人工知能)も役立ちます。実はAIにプラスチックの種類や色を選別させる技術が開発されており、その知識は「情報工学」で学べます。それぞれのリサイクルが社会全体でどれほど効果があるのか。評価には理系だけでなく、文系の知識も必要で、文理を横断する「環境科学」が活躍します。

この記事は朝日中高生新聞
2021年9月12日号から



解説 池航平 1993年、高知県出身。京都大学理学部(数学科)卒業。私学教員を経て、プラスティー京都校を中心に小学生から高校生までを指導する

学部・学科の紹介



経済学部(環境経済学)
個人や企業など「ミクロ」の視点と、国などの大きな集団である「マクロ」の視点の両方で経済を学びます。環境や農業、国家間の貿易など対象が多岐にわたり、現実の事例もあつかります。



情報工学科(情報工学)
コンピューターのソフトウェアにかかわる研究が柱の一つ。自動運転技術やがんの早期発見など、実現するのが難しいとされていた技術を学べます。異なる名称でも同じような研究を対象にする学科が多くあります。



環境科学科(環境科学)
環境問題の解決や持続可能な社会づくりをめざし、さまざまな角度からアプローチしていきます。理科学的な知識だけでなく、社会的な知識も学び、いまの時代にマッチする学問ともいえます。



哲学科(環境倫理学)
テクノロジーの進化を支えるのは人間の価値観や良心です。思想やその歴史を学び、ものごとを根底から問い直します。環境問題なら「なぜ、環境を破壊しても経済を発展させたがるのか？」などと掘り下げます。



法学部(法学)
法律をただ暗記するのではなく、条文の解釈のしかたや、社会的な課題を解決するための活用方法を学びます。これからの世の中に対し、どのような法律が必要になるかを考える未来志向の学部でもあります。

タイトル/アイコン・すぎうらあきら